

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## イチゴにおけるうどんこ病、ハダニ類の防除対策について

このままでは春先に大発生する恐れがあります  
冬季の防除を徹底しましょう！

イチゴのうどんこ病とハダニ類については、定植直後から注意を呼びかけているところですが(平成 26 年 10 月 29 日付け病害虫発生予察注意報第 7 号、平成 26 年 12 月 25 日付け病害虫防除対策資料第 18 号)、依然として多発生しています。

このまま推移すると、気温が最適となる春先には、大発生となることが予想されます。冬季のうちに防除を徹底して、春先の多発生を防ぎましょう。

記

### 1. うどんこ病

#### 1) 発生状況

- (1) イチゴの巡回調査(1月下旬)の結果、うどんこ病の発生株率は 13.3%(平年 7.1%、前年 5.0%)であり、平年および前年より多い(図1)。
- (2) 1月下旬の発生株率は、春先に多発生した平成 20 年産と同程度に多い(図1)。
- (3) 今後多発生で推移すると、果実での発病が増加し、減収となる恐れがある。

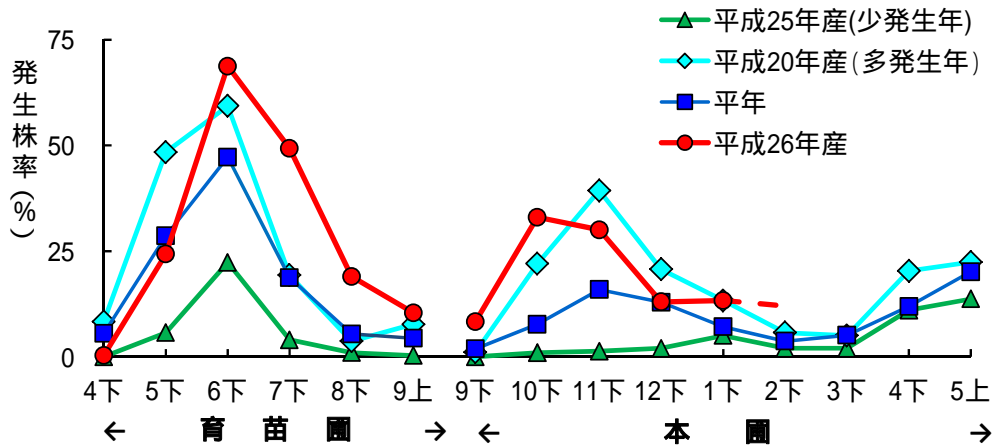


図1 イチゴの巡回調査におけるうどんこ病発生株率の推移

#### 2) 耕種的防除

- (1) 罹病部位は除去し、圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) 軟弱徒長株において発生しやすいため、株間を確保して通風や日当たりを良くし、適切な肥培管理を行う。

(3) 定期的に葉かぎを行い、感染葉を除去する。

### 3) 薬剤防除

(1) 薬液が葉裏や下位葉にも十分にかかるように古葉を除去して、ランナーの先端にもかかるよう丁寧に散布を行う。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(3) 防除薬剤の詳細については、県病害虫防除のてびき P188～191 頁を参照する。

## 2. ハダニ類

### 1) 発生状況

(1) イチゴの巡回調査(1月下旬)の結果、ハダニ類の寄生株率は 17.7%(平年 10.5%、前年 6.0%)であり、平年および前年よりやや多い(図2)。

(2) 今後多発生で推移すると、株の生育抑制や果実の品質低下等の被害を及ぼす恐れがある。

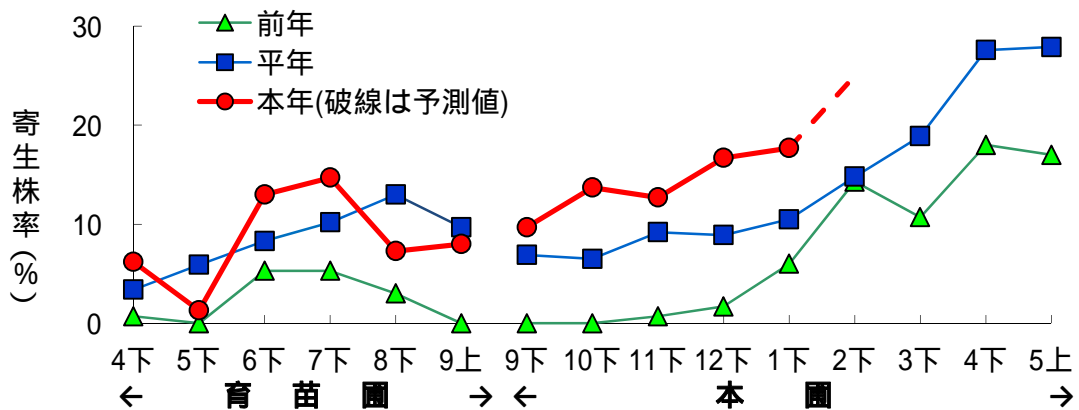


図2 イチゴの巡回調査におけるハダニ類寄生株率の推移

### 2) 薬剤防除

(1) 増殖が遅い冬季に防除を徹底する。

(2) 葉裏や下葉まで丁寧に観察し、早期発見に努める。特に、草丈が低くなっている箇所等を注意深く観察し、萎縮した株やくもの巣状の糸で覆われた株が見られる圃場では、早急に防除を実施する。

(3) 多発生圃場では、5～7日間隔で複数回連続して薬剤防除を実施する。

(4) 薬剤は下位葉等を除去した後に散布する。

(5) ハダニ類は薬剤がかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、葉裏や下位葉にも薬液がかかるよう、十分量を丁寧に散布する。

(6) 農薬の選定にあたっては、天敵やミツバチへの影響を十分考慮する。

### 3) 薬剤抵抗性対策

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う(県病害虫防除のてびき P199-200 参照)。なお、薬剤防除の際は使用時期及び使用回数等の使用基準を厳守する。

(2) 薬剤散布後も発生状況を確認し、防除効果の低下がみられる薬剤の使用は控える(平成26年12月25日付け病害虫対策資料第18号参照)。

(3) 抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖系薬剤(粘着くん液剤等)や天敵を活用し、総合的な防除を行う。